



大祭①

今月から六大大行事について順に学んでいきます。

今回は毎年、芽生えの春である五月と、穏りの秋である十月に御靈地で行われる「大祭」について学びましょう。金剛さまが解脱会を立教されて間もない昭和六年から始まつた大祭は、戦時中に中断したこともありましたが、今秋で第一八五回を数えます。

大祭といえば、参道に並んだ屋台や鼓笛隊の華やかな演奏、活気に溢れるお神輿など、さまざまに催しに心躍らせ、皆でお弁当を囲んで和やかな時を過ごす「楽しいお祭り」といったイメージを抱く人も多いのではないかでしょうが、しかし、大祭の一番の目的は別にあります。

私たちは太神様から生命を頂き、大自然の恩恵をはじめとして、大豊かなお蔭によって日々生か

されています。慌ただしい毎日の中では忘れてしまいがちですが、樹木を柱に青空を無限の天井として行う大祭は、私たちが大自然の宮みによって生かされている存在であることを思い出させてくれます。こうした自分を生かしてくださる全てに對して、心から感謝の祈りを捧げることが大祭の目的なのです。

また、大祭で萬靈魂祭塔に向かって行つ「萬靈大供養」は、よく「萬部供養」と混同されがちですが、全くの別物です。

支部を通じて個人が申し込み、靈界の金剛さまが直接、執行してくださるのが「萬部供養」です。一方、大祭における「萬靈大供養」とは、萬部供養で申し込まれたお靈魂も含めた萬靈魂祭塔に鎮まるすべての万物・万靈に対し、会場が一体となつて感謝の真心を捧げさせていただぐもの

です。

萬靈魂祭塔には、古以来の人類および鳥獸虫魚樹木草に至るまで、あらゆるお靈魂が祭られています。金剛さまは建立当時、会員に対して「こうしたすべてにご厄介になつて生かされているのだから、せめて年に一度や二度は萬靈魂祭塔の前に額すいて御礼を申し上げるのが我々の礼節であり、務めだ」とおっしゃいました。大祭の折に額すいて御礼を申し上げるのをおつしやいましょう。

最後に、大祭には私たちだけでなく、各家のご先祖さまも参加されます。大祭へ出させていただく前には、自宅のご仏壇にご先祖さまも一緒に参りましょう」とお声掛けしましよう。

◎それぞれの心に残る大祭の思い出について話し合つてみよう。